

11 月チャプレンだより

「傷を大切に」

聖書の中に、イエスキリストの復活を信じようとしなないトマスという弟子に対して、イエス様が、その十字架上で受けた、手と脇腹の傷跡を示される場面がでてきます。イエス様はトマスに、「私の手に指をあててごらんください。手を出して、私のわき腹に入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われました。するとトマスは、その傷跡を目にしたとたん、「わたしの主、わたしの神」と、イエス様に対する愛の告白が、自然に、その口からほとぼしりでたのでした。

傷には、不思議な力があります。傷は、それに触れた者の優しさや愛、また信頼さえも引き出してしまふのです。

星野富弘さんの詩にこのような詩があります。

「わたしは傷をもっている。でも、その傷のところから、あなたのやさしさがしみてくる」。

傷がなければ感じるができなかったものを、傷があるゆえに感じるができた、この若くして怪我のために手足の自由を失った人は、歌っています。傷は、悪いモノではなく、その人の宝であると言っているようです。

「優しい」という字は、ニンベンに「憂い」と書きます。憂いを抱いて生きている隣人の傍らにたたずむ人の姿です。それは、自分自身の傷からも目をそらさず、その傷とともに優しく生きている人の姿です。傷つくために生まれ、事実、傷だらけの最後をとげた十字架上のイエスキリストの言葉は、「父よ、彼らをゆるしてください」と言う優しさに満ちた言葉でした。

このイエス様は、復活された後も、その栄光に輝く身体に、しっかりと十字架上の傷跡を残しておられました。それはあたかも私たちに対して、「あなたの傷を大切にしてください」とおっしゃっているかのようです。

復活後、弟子たちに現れたイエス様は、「あなたたちに平安があるように」と言ってから両手とわき腹の傷跡を示されました。そのイエス様の姿に、失望落胆していた弟子たちは、希望の光を見たのでした。

私たちには傷があります。しかし恵みの神は、その傷を隣人への優しいともしびとして、豊かに用いてくださるのです。あなたの傷を大切にしてください。

聖書の言葉

「彼の受けた傷によって、わたしたちは癒(いや)された。」 イザヤ 53 : 5